

◇アコ研 かんれき会◇

2022 年 12 月 18 日（日）13：00 開演 ライブハウス ニューエイト（大田区/蒲田）

東京アコーディオン研究会（通称「アコ研」）が 12 月 18 日（日）ライブハウス ニューエイトで「かんれき会」を開催しました。

アコ研のみなさんは、関東アコに実行委員として担当者を送り出して下さっているだけでなく、9 月に開催される演奏交流会（コンクール）に毎回参加されています。「かんれき会」は会場の制約もあり内輪の会ではあったけれども紹介したくお邪魔させて頂きました。



会進行の中でいろいろな出来事が語られました。そこで、当日参加者に贈呈されたアコ研創立 60 周年記念誌「アコ研 60 年のあゆみ」の中から、少し歴史を紹介してみます。

東京労音アコ教室（会の発足当時の名称）第 1 期開講は 1961 年 5 月と記されています。第 2 期は 1962 年、第 3 期は 1963 年、この年の 12 月に「東京労音アコーディオン研究会（東京労音の演奏サークル）」が創立されました。翌年（1964 年）は 4 期・5 期のように、この年からしばらくは半年（6 ヶ月）を 1 期とし年間 2 回開講していたことがわかります。その後、労音会館の移転に伴う対応として 2013 年に「東京アコーディオン研究会」と改名して現在に至っていることがわかります。

また、講師の変遷では、会発足当時は伴典也先生（3 期生/1963 年、4 期生/1964 年が寄稿された「アコ研の思い出」の原稿の中に伴典也先生の名前をみることができる）。1968 年～2004 年（浜名政昭先生）。2008 年～現在（柴崎和圭先生）。と引き継がれてきたことがわかります。

さて、ライブの様子を紹介します。

30 分前に開場し、地下 1 階の会場へと入りました。受付で記念誌等の入った封筒とチップのコインを受け取りました。座席は指定で、筆者が案内された席は（取材に何うと伝えてあったためか）ステージ目の前の中央のテーブルで恐縮しました。平らな床に丸いテーブルが並びテーブル上にはつまみの入ったバックが席ごとに置かれていまし

た。

私たちがコンサートによく利用するようなホールではなくライブハウスなので、やや狭い空間でしたが演奏者との距離が近く表情や息使いまでしっかり伝わって来ました。

定刻になり、村上一郎さんの「ピア樽ポルカ」で幕が開きました。演奏後、一言開幕のあいさつがあり、乾杯の準備のため、受付で渡されたコインと飲み物を引き換えにカウンターに並びました。ビール、ワインも可だったので筆者は赤ワインを注文。



そして乾杯！（音頭をとられた方はアコ研 7 期生の小山龍雄さん 81 歳。後日、現在も柏年金者組合など 7 カ所で、毎月アコ伴奏されているとお聞きしました）

・・・ステージの準備の間しばし歓談・・・



お待たせしました。プログラム最初の演奏は「チロルのアコーディオン弾き」。

演奏者は宇佐見加奈子さん・江頭恭子さんです。二人はアコ研の同期、“知り合ってから 40 年以上経ち、この曲を弾くと若いとき行ったスイス、オーストリアのハイキングを思い出す。”とプログラムにコメントがあります。



次は「信濃の国変奏曲」演奏者は百瀬まなみさん。客席の目の前で弾くので心臓はドキドキだったのではないだろうか。プログラムのコメントには、“「信濃の国」は長野県の県歌です。祖母がこの夏に 96 歳で他界されたとき、祖母から譲り受けたこの楽器で、ぼけても大好きだ

った「信濃の国」を伴奏し親戚一同歌って見送った。”と記されています。



次は「モントーバン」の火・マライヤ」。café 301のユニット名で演奏者は磯部裕子さん・鎌田千津子さんです。このデュオ

は、9月の関東アコに重奏の部で出場し、曲も「モントーバン」の火を演奏したお二人です。“同級生がデュエットを始めて3年、挑戦した曲は増えていますが「マライヤ」は新曲です。ウクライナの平和を願って弾きます。”とプログラムにあるコメントです。

三拍子のリズムに乗って雲が流れていくように歌い上げていました。



次は「恋しくて」によるエチュード」。演奏者は渡部美代さん。プログラムには“浜名先生が、フリーベースアコを弾く私のために作ってくださった曲です。当初は、ずいぶんと

難しかった。沖縄の海、寄せては返す波を思いながら”と記されています。ベースボタンを押している長さの使い分けが新鮮でした。



次は「スタイルミュゼット」。ユニット名は「M&I」、演奏者は渡部美代さん・村上一郎さん。

プログラムには“浜名先生に最初に指導していただいた曲です。かつて関東アコの重奏の部に渡部美代さんと参加し2位を頂きました。あれからだいぶ経ち忘れかけていますが再び渡部美代さんに手伝っていただき演奏します。”と記されています。村上さんの刻むリズムに渡部さんのメロディが重なって素敵な演奏でした。

次は、オカリナ夫婦デュオ。お尻に狸の尻尾を付けて登場した印南 実さん／印南 幸子さんが、バックにリズムを流して「シルクロード」を演奏。ユニット名は「ぽん・ぽこ」。“ネーミングは、二人とも太

っているので・・・、「シルクロード」はアコ研で初披露した曲ということでメンバーからのリクエストです。



オカリナを始めて15年、アコより長くなりました。”とプログラムにコメント。

～10分休憩～

休憩後はお待ちかねの合奏です。演奏曲は「ダンスマカブル」と「さくら」。

筆者は「ダンスマカブル」は、9月に関東アコ「合奏の部」で演奏し1位を頂いたけれど、あのときは演奏時間の規定で7分以内に縮めた演奏だったので今回は全曲に挑戦しますと伺っていました。改めて録音した曲を聴いてみると演奏時間は10分でした。

バスアコを弾いた岡田さんは、プログラムに“バスアコは、浜名先生が購入を希望され、アコ研の財産になっている。合奏での心地好さに惹かれて弾いている。しかし、難しい！大きい、重たい、遅れて音が出る、1音1音の響き、等々、難行苦行。15キロの孫の世話で体力を養い、奮闘の日々は続く。”と綴っています。



合奏の次は、紹介コーナー。最初はドラマーの鎌田朗さん。(メンバーの鎌田千津子さんのご子息で、ドラムを教えながらあちこちで演奏もされていると紹介)

続いては、現在の常任指揮者柴崎和圭先生です。紹介された柴崎和圭戦士は『伴典也先生の教え子だったのが御喜美江さん。私はその御喜美江さんに教わっている。人生はめぐり巡って



不思議な縁を感じます。60年という年月でわかるようにアコ研の研究生だった方があちこちで種をまかれて育っています。それは素晴らしいことだなと思います。

まずは続けること、浜名先生がそれだけ愛されて育ててここまで大きくなって、そのあと2010年からバトンを私が受け取ったのかなと思います。より楽しくより深くこれからもみなさんと一緒に感動しながら続けていけたら良いかなと思います』と挨拶。

続いてゲストの紹介。(浜名政昭先生のお嬢様)『先ほど資料を見たら、父が講師になったのが1968年と書いてあります。私が生まれたのは1965年です。私が3歳頃から父がかかわっていたのかなあとと思うと長いこと続いていて素晴らしい会だと思ひます。

父が存命であれば94歳になる年です。晩年、体力的に通うのが難しくなつて次の指導者に引き継がなければいけない状態になったときに、あの頃の練習会場が十条で、父にとっては一番遠い会場だったにもかかわらず一番行きたかったのがアコ研でした。それだけアコーディオンに対する思いも強くみなさんという時間が楽しかったからだと思ひます。私はアコーディオンの演奏を間近で観るのは初めてでしたけれども、いろんな種類があることとか、アコーディオンの弾けない私には、複雑なこの楽器でこんな素晴らしい音色で演奏されて素晴らしい、会場の大半の方はこの楽器を演奏できるんだと思ひますみなさん本当に素晴らしい。今後も続けられたらどうでしょうか』と挨拶。(拍手)

続いての紹介は、NJ アコーディオンサービス(アコーディオンの調律、修理をされている成澤純さん)。『いままでいろんな修理が来ていますが、直らないでお返した楽器は一台もありません。(拍手)一番ひどかったのは4階のベランダから落

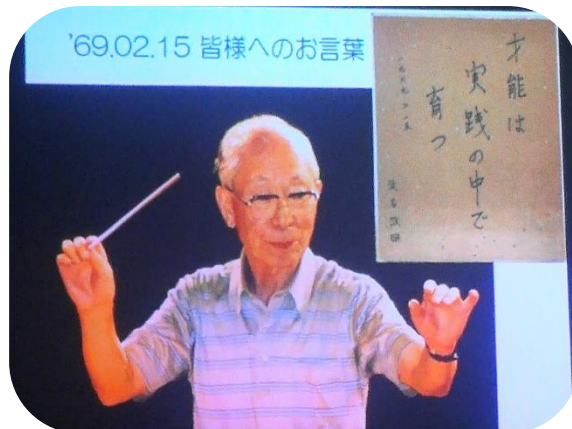


としました。(笑)、笑われた方はその状況がわかっている方かと思ひますが、それでもアコーディオンは直ってくれるので、その辺がある意味楽しみでもあります。どんな故障でもお受け致します。』と挨拶。

続いてスライドショー。会員の結婚式の様子、ま

た、出演者160名が舞台に揃った「6つのサークル(浜名先生が指導)合同コンサート」の様子は圧巻です。他に浜名先生名言集の中から紹介(写真)、さらに、仙台から駆けつけた方の紹介もあり

ました。60年の歩みを写真で観て客席から「なつかしい!」とか、「そうだった」とか「あのときは…」などの話し声と笑い声が聞こえていました。



貴重な記録を観賞したあとは、事前に配られていた歌詞付の譜面を参考に「仲間の歌」「恋人よ」「百万本のバラ」などみんなで歌いました。伴奏は高橋孝一さんです。



そして終わりの挨拶、記念に集合写真を撮って閉会となりました。



会場の定員が50名ほどだったことから、一般の方にまで声をかけて誘うことが出来なかった中でしたけれども、アコ研の歩みを知る良い機会を与えていただきありがとうございました。(記:乙津)

♪ 3/26 東京アコーディオン研究会 ・ 内部発表

アコ研60周年を祝う「かんれき会」からわずか3か月と、練習期間が短い中、合奏、重奏ともに新曲を入れ、全員がソロを弾くなど頑張りました。以前弾いた曲を仕上げたり、取り組み始めた新曲を紹介したり。ここ数年はコロナ渦の中でしたが、毎年、こうして内部発表会を行うことで、地道にレベルアップを図っています。

前半は、現役生。後半は、先輩メンバーも交えて、最後は合奏で締めくくりました。



村上一郎さん
「ビヤ樽ポルカ」



江頭恭子さん
「パリ祭」



Cafe301 (鎌田、磯部)
「チュイルリー公園にて」
「マライヤ」



宇佐見加奈子さん
「バラが咲いた」

鎌田千津子さん
「ミュゼットの女王」



百瀬まなみさん
「信濃の国変奏曲」



2K (江頭、宇佐見)
「キールに敬礼」

磯部裕子さん
「コンサートワルツ」





岡田栄子さん
「だんだん
だんだん」



上ノ原良幸さん
「津軽のふるさと」
「名月赤城山」



内田賢一さん
「ドミノ」「枯れ葉」
「人生のメロゴーランド」



渡部美代さん
「タランテラ」



思わず飛び入り参加
の OB 浅野さん

OB の廣瀬さん。いつも応援ありがとうございます



全員合奏
「キューピー3分クッキング」
「パリのお嬢さん」



柴崎先生より
丁寧な講評を
いただきました



ひさしぶりに、
夜の部も！



4月からは、新しい合奏曲「ねこふんじゃった」(ナント! #6つ) に
取り組んでいます。変幻自在なねこたちに翻弄されながら 🐾 挑戦中です!!